

事務連絡
令和5年10月31日

各地域・職域薬剤師会会長様

静岡県薬剤師会事務局長

「第27回日本統合医療学会学術大会」チラシの送付について

標題の件について、第27回日本統合医療学会学術大会事務局より別添文書のとおり通知がありました。

つきましては、案内チラシを送付いたしますので、貴会会員へのご周知方よろしくお願ひ申し上げます。

記

【第27回日本統合医療学会学術大会】

日時 令和5年12月16日（土）、17日（日）

会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

※参加登録が必要です。案内チラシQRコードよりご登録ください。

担当：静岡県薬剤師会事務局総務スタッフ；瀬川
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵二丁目16番32号
電話：054-203-2023／FAX：054-203-2028



静岡県立大学

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

Center for Pharma-Food Research (CPFR),
Graduate School of Pharmaceutical Sciences, University of Shizuoka,
52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka 422-8526, Japan



静岡県薬剤師会 事務局御中

前略

平素は大変お世話になっております。静岡県立大学の山田靜雄と申します。

この度、第 27 回日本統合医療学会学術大会を 令和 5 年 12 月 16 日（土）～17 日（日）に静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて開催させていただきます。

静岡大会は「健康長寿と統合医療—こころ・からだ・たべもの・くすり」というテーマで、学術的および実践的な研究成果を発表・議論し統合医療の更なる発展を期すものです。具体的には、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、教育セミナー、一般演題発表、機器展示など、魅力あるプログラムを企画することができました。これから医療として注目されている統合医療は、医療従事者が中心となる医療モデルに加え、地域のコミュニティが主体となる社会モデルからなり、医療、保健、福祉の三位一体の体制で統合された地域包括的ケアシステムにより健康長寿を指向するものです。静岡大会では、健康維持・増進、病気の予防から治療などからの地域・まちづくりのための包括的な取り組みにより、「人生 100 年時代を健康で生きぬく」ための秘訣について、多様な切り口から統合医療的視点をふまえて議論していただきます。

市民公開講座では、本学会業務理事の川嶋みどり先生に加え、自由民主党統合医療推進議員連盟会長の橋本聖子参議院議員から「日本発の統合医療を目指して一キュアからケアへ、そして健康なまちづくり」と題してご講演をいただきます。

本大会には全国から医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士をはじめとして、鍼灸師、アロマセラピスト、ヨガ療法士などさまざまな医療従事者が一同に集い交流します。静岡県内開催は初めてであり、学術研究者のみならず医療専門職や市民参加型の会として、統合医療への理解を深めるとともに静岡から「健康長寿と統合医療」に関する新たな情報発信の機会にしたいと考えています。4 年ぶりの対面形式の開催ですので多くの皆様のご参加を心からお待ち申上げております。

本資料等につき、貴会の会員様にもご案内いただけましたら幸甚でございます。

○学会 HP と大会参加登録

（以下の HP をご参照ください）

第 27 回日本統合医療学会学術大会

<https://confit.atlas.jp/guide/event/imj2023/top?lang=ja>

<https://confit.atlas.jp/guide/event/imj2023/static/Registration>

山田靜雄 第 27 回日本統合医療学会学術大会長
静岡県立大学大学院薬学研究院 薬食研究推進センター
山田静雄



草々

第27回

日本統合医療学会 学術大会

2023年

12月16日(土)・17日(日)



健康長寿と統合医療 —こころ・からだ・たべもの・くすり—

大会長・代表理事講演、特別講演・教育講演（講演予定者・仮題）

(敬称略)

- ・健康長寿と統合医療—ヒトの進化の過程への一考察 (代表理事 伊藤壽記)
- ・健康長寿と統合医療 (大会長 山田靜雄)
- ・安全で健康な長寿社会 (静岡県立大学学長 尾池和夫)
- ・「適塩和食」で健康寿命は延ばせる—世界の健診からの福音 (武庫川女子大学国際健康開発研究所所長 家森幸男)
- ・ゲノム医療の新展開—統合医療の視点からー (静岡がんセンター名誉総長兼理事 山口 建)
- ・人生100年時代の健康・医療サービス (社会政策課題研究所所長 江崎禎英)
- ・大災害を経験し、変革してきた我が国の災害対応
—防ぎえる災害死回避のための保健医療・福祉への拡大— (国立病院機構災害医療センター病院長 大友康裕)
- ・統合医療と心身医学—身体・心理・社会・環境から観る (中村学園大学・短期大学部学長 久保千春)
- ・高齢者におけるフレイルとポリファーマシー (名古屋大学大学院医学系研究科教授 梅垣宏行)
- ・経路ファシア論 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構研究員 建部陽嗣)
- ・糖尿病とその先の心と体に関するフラクタル解析の科学 (CHI Awakening Academy President, Sweden, Dr. Jibin Chi)

シンポジウム・ワークショップ(予定)

統合医療と関連して、地域創生と社会モデル、災害、看護と自然治癒力、AI・VR、慢性疾患、統合医療学総論、スピリチュアリティ、運動など。伝統医学(アーユルベーダ、中国伝統医学、マクロビオティック)に見る食薬活用、機能性食品と疾患、鍼治療講座、地域包括ケア、口腔ケアなど。

市民公開講座

講演1:川嶋みどり(日本統合医療学会業務執行理事)、講演2:橋本聖子(参議院議員、自由民主党両院議員総会長)

一般演題募集期間

令和5年7月1日(土)～8月31日(木)

会場

静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ[®] (JR東静岡駅徒歩3分)

[情報交換会]日本平ホテル

名譽
大会長

伊藤 壽記

(日本統合医療学会代表理事、大阪がん循環器病センター所長)

大会長

山田 靜雄

(静岡県立大学特任教授、大学院薬食研究
推進センター長、日本統合医療学会理事)

参加登録が必要です
QRコードよりご登
録ください



事務局／静岡県立大学大学院薬食研究推進センター

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 [E-mail] imj2023@u-shizuoka-ken.ac.jp

<https://confit.atlas.jp/guide/event/imj2023/top?lang=ja>

後援／静岡県立大学、静岡県、静岡市、静岡県医師会、静岡県歯科医師会、静岡県看護協会、静岡県薬剤師会、静岡県栄養士会、日本健康運動指導士会静岡県支部、静岡県鍼灸師会、日本統合医療学会静岡・山梨(富士山)支部、NPO法人くすり・たべもの・からだの協議会



どなたでも
参加できます

参加費

無料

市民公開講座

第27回日本統合医療学会学術大会

NPO法人「くすり・たべもの・からだの協議会」(第31回講演会)共催

講演1

ぴんぴんキラリと自分らしく生きましょう 一九十路の実感を通して

川嶋 みどり先生

(健和会臨床看護学研究所所長、日本赤十字看護大学名誉教授、日本統合医療学会業務執行理事)



1931年京城(現在のソウル)で生まれ、1951年日本赤十字女子専門学校卒業後、日本赤十字社中央病院(現日赤医療センター)看護師20年を経て、看護師卒後研修、看護大学兼任講師等、1982年日本で最初の臨床看護学研究所創設、2003年日本赤十字看護大学教授、学部長 2008年日本統合医療学会創設時から本学会員として活動、1995年若月賞、2007年ナイチンゲール記章、2015年山上の光賞、著書 看護の力(岩波新書)新訂生活行動援助技術(看護の科学新社) 看護の羅針盤(ライフサポート社) 親愛なるナイチンゲール様(合同出版)他多数

講演2

日本発の統合医療を目指して 一キュアからケアへ、そして健康なまちづくりー

橋本 聖子先生

(参議院議員、自由民主党両院議員総会長、自由民主党統合医療推進議員連盟会長)



東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長、内閣府特命担当(男女共同参画)大臣、女性活躍担当大臣、東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣など歴任。
冬季オリンピックアルペールヒル大会スピードスケート1500m銅メダル獲得。オリンピック出場7回(女子として世界最多記録)。IOC女性スポーツ賞、日本ユネスコ・フェアプレー賞など多数受賞。

日時

2023年12月16日土 14:30~16:30

会場

グランシップ(静岡市) 11階会議ホール「風」

お問い合わせ先

第27回日本統合医療学会学術大会 事務局(静岡県立大学大学院薬食研究推進センター)

<https://confit.atlas.jp/guide/event/imj2023/top?lang=ja>

特定非営利活動法人「くすり・たべもの・からだの協議会」<http://ktk-shizuoka.or.jp>

電話:054-264-5625 ファックス:264-5626 メールアドレス:cpfr01@u-shizuoka-ken.ac.jp

大会長の挨拶

山田靜雄 第 27 回日本統合医療学会学術大会長
静岡県立大学大学院薬学研究院 薬食研究推進センター

この度、第 27 回日本統合医療学会学術大会を 令和 5 年 12 月 16 日（土）～17 日（日）に静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて開催させていただくにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

近年の医学・医療の目覚ましい進歩や生活環境の整備により 多くの病気の治療が可能になった一方で、疾病構造も急性疾患から生活習慣病中心の慢性疾患へシフトするとともに、心の病や多剤服用が増え医療費は増加の一途を辿っています。健康寿命をおびやかす要支援・要介護の原因として、認知症、運動機能の障害であるロコモティブシンドロームやフレイルなどがあり、それらのケアと予防は重要な課題となっています。また高齢者においては複数の疾患を併発している患者が多く、食欲不振、摂食・嚥下障害、便秘、認知機能障害、うつ状態やフレイルなど高齢者の生活の質（QOL）に悪影響を及ぼすポリファーマシー（多剤服用）による抗コリン性有害事象が大きな社会的課題となっています。高齢者が頻用する薬剤には抗コリン作用を示す薬剤が多く（約 600 剤との報告）、本邦では海外に比べポリファーマシー対策の遅れが懸念されます。

世界保健機構（WHO）によると、「健康とは、身体的、精神的、社会的良好な状態のこと、単に病気がない状態だけではない」と定義されています。健康の維持・増進のための基本的要素は、食・栄養、運動と休養です。自らの健康管理に努めるセルフケア・セルフメディケーションが普及し、健康増進や病気の予防・治療を目的として、ビタミン・微量元素などの食・栄養療法・サプリメントや機能性食品、ハーブ療法、アロマセラピー、マッサージ、アーユルヴェーダ、鍼灸、ヨガ、カイロプラクティック、オゾン療法、温泉療法などのさまざまな相補（補完）医療や伝統医療とともに、これらを近代西洋医学と組み合わせた統合医療の実践により、費用対効果が高く QOL を重視した全人的医療が期待されています。統合医療には、医療従事者が中心となる医療モデルと地域のコミュニティが主体となる社会モデルがあり、医療、保健、福祉の三位一体の体制で統合された包括的ケアシステムの構築が重要となっています。

静岡大会は「健康長寿と統合医療—こころ・からだ・たべもの・くすり」というテーマで、学術的および実践的な研究成果を発表・議論し統合医療の更なる発展を期すものです。具体的には、特別講演、シンポジウム、ワークショップ、教育セミナー、一般演題発表、機器展示など魅力あるプログラムを企画しています。「人生100年時代を健康で生きぬく」ための秘訣について、多様な切り口から統合医療的視点をふまえて議論していただきます。市民公開講座では、自由民主党統合医療推進議員連盟会長の橋本聖子参議院議員から「日本発の統合医療を目指して一キュアからケアへ、そして健康なまちづくり」と題してご講演をいただきます。本大会には医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士をはじめとして、鍼灸師、アロマセラピスト、ヨガ療法士などさまざまな医療従事者が一同に集い交流します。静岡県内開催は初めてであり、学術研究者のみならず医療専門職や市民参加型の会として、統合医療への理解を深めるとともに静岡から「健康長寿と統合医療」に関する新たな情報発信の機会にしたいと考えています。

静岡市は、徳川家康公が人生の約3分の1を過ごされた地であり、幼少時代に教育を受けたとされる臨済寺、大御所時代に居城となった駿府城などゆかりの地を多数有します。美しい富士山と駿河の海、温暖な気候や美味しい食事など、家康公が静岡を愛されたわけを実感していただけることと存じます。

昨年、大会長を拝命して以来、ご参加いただきます皆様にとって実り多い会となりますよう銳意準備を進めてまいりました。4年ぶりの対面形式の開催予定ですので多くの皆様のご参加を心からお待ち申し上げております。本学会開催にあたり、多大なご支援・ご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

大会長講演

人生 100 年時代の健康長寿を考える～こころ・からだ・たべもの・くすり

山田 静雄 第 27 回日本統合医療学会学術大会長

静岡県立大学大学院薬学研究院薬食研究推進センター

わが国の平均寿命は男性が 81.47 歳、女性が 87.57 歳（2019 年厚労省）であり、今後も伸びていくと予想される。百寿者が 9 万人を超える「人生 100 年時代」と言われるようになった。しかしながら、健康寿命は男性で 9 年、女性で 12 年短く、その間は健康上の問題で日常生活が制限される。近年、疾病構造も急性疾患から生活習慣病中心の慢性疾患へシフトするとともに、心の病や多剤服用（ポリファーマシー）が増え医療費は増加の一途を辿っている。健康寿命をおびやかす要支援・要介護の原因として、認知症、運動機能障害のアルツハイマー病やロコモなどの虚弱状態（フレイル）がありケアと予防が重要な課題となっている。

統合医療に関心が高い米国ケリー・ターナー博士は「ポジティブ思考は心の苦痛やストレスから解放し免疫の活性化に導く」、ブルース・リプトン博士は「心・思考は体に優先し薬より力がある」と著書で述べている。ヒト・社会と交わり集うことにより生存率が高まることや人生を楽しむことで心疾患による死亡リスクが低減することも報告されている。心のあり方が健康に関わりがあることを示している。栄養面では、糖質、脂肪と動物性たんぱく質の過剰摂取の一方で、植物性たんぱく質、ビタミン、ミネラルや食物繊維の不足による食・栄養のアンバランスが指摘され、食生活の改善に加えビタミン・微量元素などのサプリメントや機能性食品などによる食・栄養療法が注目されている。

高齢者においては複数の疾患を併発している患者が多く、食欲不振、摂食・嚥下障害、便秘、認知機能障害、うつ状態やフレイルなど、高齢者の生活の質を損なうポリファーマシーによる抗コリン性有害事象が大きな社会的課題となっている。高齢者が頻用する薬剤には抗コリン作用を示す薬剤が多く（約 600 剤と報告）、本邦では海外に比べポリファーマシー対策の遅れが懸念される。私たちは高齢者に頻用される 260 薬剤を用いて、ポリファーマシーによる有害事象の回避・減薬の科学的根拠となる薬剤の抗コリン負荷スコアを本邦で初めて開発することができた。本スコアを用いた有害事象の回避による適正な薬物治療が期待さ

れる。

世界保健機構（WHO）によると、「健康とは、身体的、精神的、社会的良好な状態のことで、単に病気がない状態だけではない」と定義されている。健康で長生きするためには、食・栄養、運動、休養・睡眠、そしてヒト・社会とのつながりが相互にバランスよく調和がとれていることが重要で、それらが虚弱になるとフレイルのリスクが高まる。足掛け4年間におよぶコロナ禍で、Stay homeなどで更なる健康度の低下は否めない。学んだ大切なこととして、自然治癒力・免疫力、そして予防の重要性である。近代西洋医療に加え、相補（補完）医療や統合医療を取り入れ、単に寿命の延長だけではなく、元気で健康な心身状態で生涯自立して過ごせる生活習慣を身につけるセルフケア・セルフメディケーションの実践が人生100年時代の健康長寿への道と考えられる。

【略歴】

- 1975年 ロンドン大学薬学部・ノッティンガム大学医学部留学
 - 1976年 静岡薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了（薬学博士）
 - 1976年 静岡薬科大学助手（薬理学教室）
 - 1978年 アリゾナ大学医学部博士研究員
 - 1994年 静岡県立大学助教授、カリフォルニア大学脳機能研究所客員研究員
 - 2004年 静岡県立大学薬学部教授、2011年 静岡県立大学理事兼副学長
 - 2013年 第20回日本排尿機能学会会長
 - 2014年 静岡県立大学特任教授、大学院薬食研究推進センター長
 - 2015年 NPO法人 くすり・たべもの・からだの協議会・静岡県食育協会 理事長
- 【専門分野】 薬理学、薬物動態学、排尿機能学、食品機能学